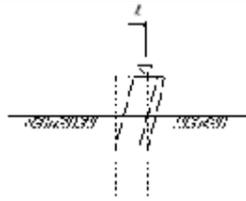
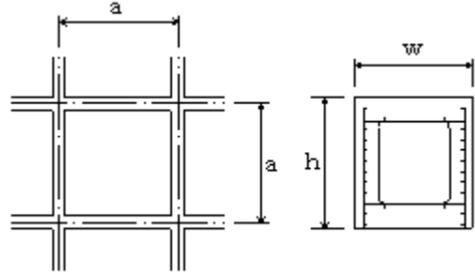
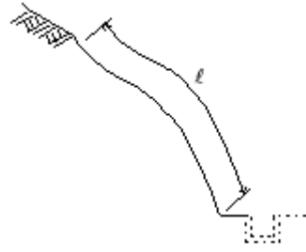
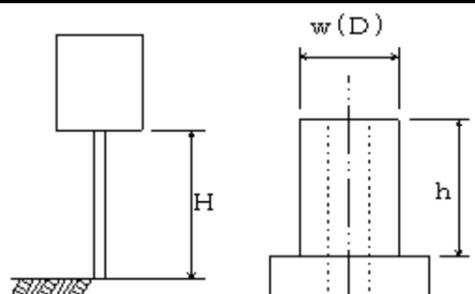


出来形管理基準及び規格値

単位:mm

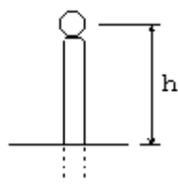
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
1	3	3	4		矢板工(指定仮設・任意仮設は除く) (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (幅広鋼矢板) (可とう矢板)	基準高	±50	基準高は施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						根入長	設計値以上				
						変位 $\delta$	100				
1	3	3	5	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 $l$	L < 10m	-100	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		曲線部は設計図書による
							L ≥ 10m	-200			
						幅 w		-30	枠延長100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						高さ h		-30			
						吹付枠中心間隔 a		±100	1施工箇所毎		
延長 L		-200									
1	3	3	5	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 $l$	L < 10m	-100	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
							L ≥ 10m	-200			
						延長 L		-200	1施工箇所毎		
1	3	3	6		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長 $l$	L < 3m	-50	施工延長20mにつき1箇所、20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
							L ≥ 3m	-100			
						厚さ t	t < 5cm	-10	200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。		
							t ≥ 5cm	-20			
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上				
延長 L		-200	1施工箇所毎								

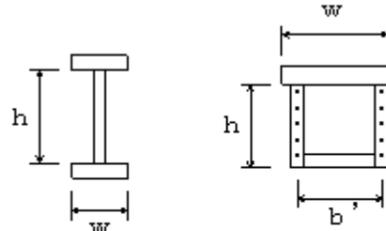
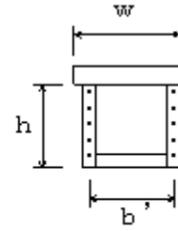
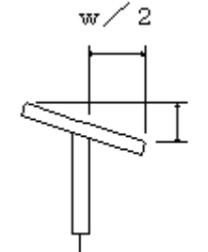
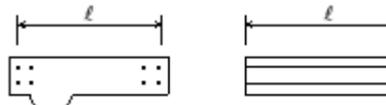
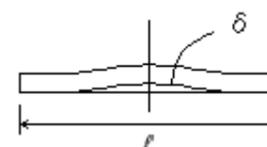
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
1	3	3	7	1	植生工 (種子吹付工) (客土吹付工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生ネット工) (種子帯工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土法長 $l$	L < 5m	-200	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
							L 5m	法長の-4%				
						盛土法長 $l$	L < 5m	-100				
							L 5m	法長の-2%				
		延長 L		-200	1 施工箇所毎							
1	3	3	7	2	植生工 (厚層基材吹付工)	法長 $l$	L < 5m	-200	施工延長 20m につき 1 箇所、20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
							L 5m	法長の-4%				
						厚さ $t$	$t$ < 5cm	-10				施工面積 200 m <sup>2</sup> につき 1 箇所、面積 200 m <sup>2</sup> 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。検査孔により測定。
							$t$ 5cm	-20				
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50% 以上とし、平均厚は設計厚以上。					
		延長 L		-200	1 施工箇所毎							
				延長 L		-200	1 箇所 / 1 施工箇所					
1	3	3	8		縁石工 (縁石・アスカ-ブ)							
1	3	3	9		小型標識工	設置高さ H		設計値以上	1 箇所 / 1 基			
						基礎	幅 w (D)	-30	基礎 1 基毎			
							高さ h	-30				

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
						基礎					
1	3	3	10		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	-30	単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基につき 1 箇所測定。		
							高さ h	-30			
						パイプ取付高 H		+30 -20	1 箇所 / 1 施工箇所		
1	3	3	11	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1 箇所 / 施工延長 20m 20m 以下のものは、2 箇所 / 1 施工箇所。		
							高さ h	-30			
						ビーム取付高 H		+30 -20	1 箇所 / 1 施工箇所		
1	3	3	11	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30	1 箇所 / 1 基礎毎		
							高さ h	-30			
							延長 L	-100			
						ケーブル取付高 H		+30 -20	1 箇所 / 1 施工箇所		

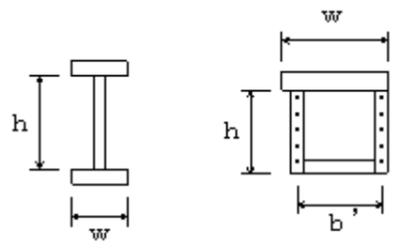
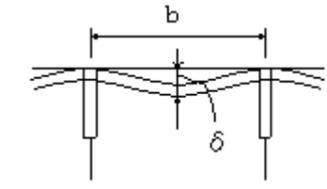
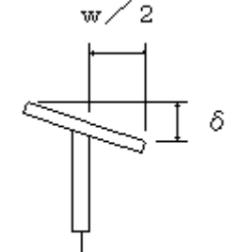
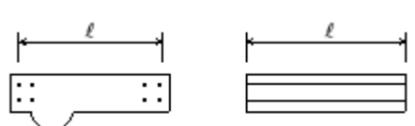
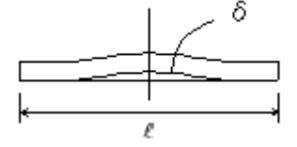
出来形管理基準及び規格値

単位:mm

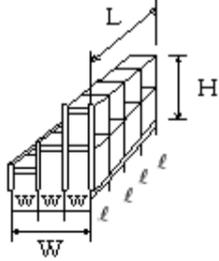
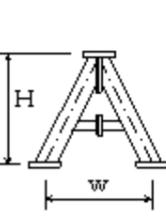
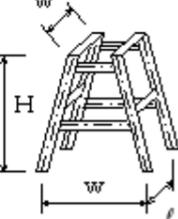
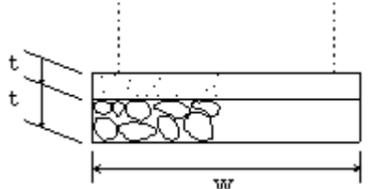
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	12		区画線工	厚さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピスにより測定。		
						幅 w	設計値以上			
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	13		道路附属物工 (視線誘導標) (距離標)	高さ h	±30	1箇所/10本 10本以下の場合、2箇所測定。		

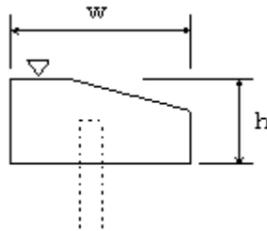
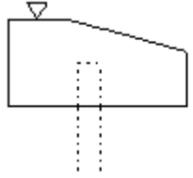
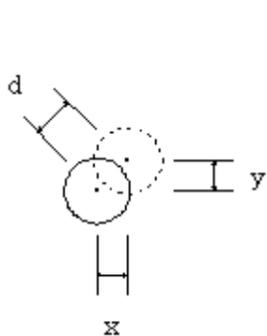
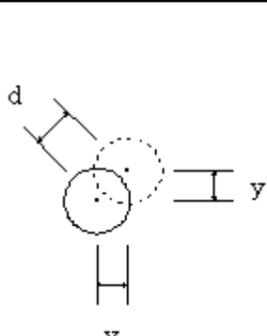
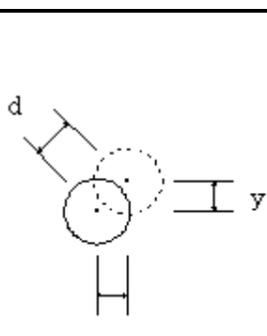
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要				
1	3	3	14	1	桁製作工	部 材 精 度	フランジ幅w(m) 腹板高 h(m) 腹板間隔b (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)2.0 < w$	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I型プレート ガーター			
									床組など			 トラス弦材		
									板の平面度 (mm)	プレートガ-タ-及びトラス等の部材の腹板	$h / 250$		主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。
										箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b / 150$			
										フランジの直角度 (mm)	$w / 200$			
									部 材 長 L (m)	プレート ガ-タ-	$\pm 3 \dots L \leq 10$ $\pm 4 \dots L > 10$	原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。		
										トラス、 ア-チなど	$\pm 2 \dots L \leq 10$ $\pm 3 \dots L > 10$			
		圧縮材の曲がり (mm)	$L / 1000$		主要部材全数を測定。									

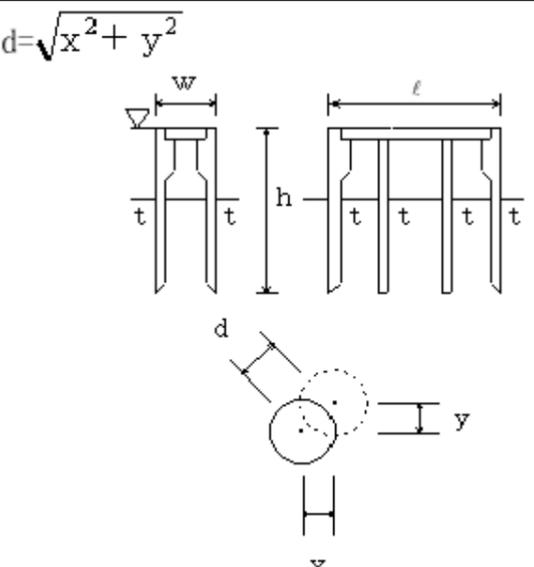
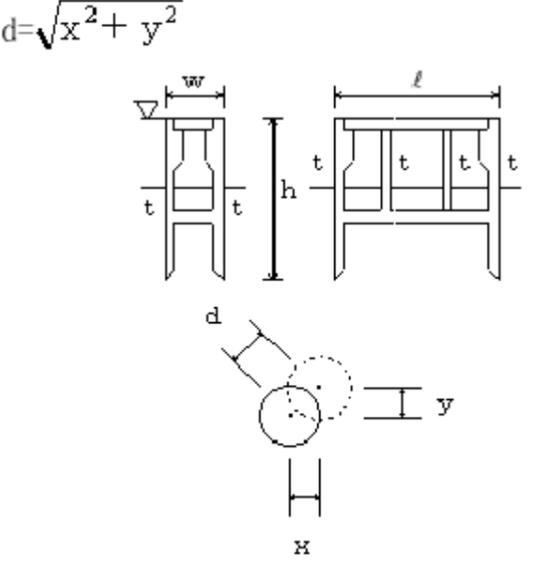
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要	
								プレートガ-タ-	トラス・ア-子等			
1	3	3	14	1	桁製作工	仮組立精度	全長、支間長L(m)	$\pm(10+L/10)$				
							主桁、主構の中心間距離(m)	B $\pm 4 \dots B \ 2$ $\pm(3+B/2) \dots B > 2$				
							主構の組立高さh(m)	$\pm 5 \dots h \ 5$ $\pm(2.5+h/2) \dots h > 5$	-	両端部及び中心部を測定。		
							主桁、主構の通り(mm)	$5+L/5 \dots L \ 100$ $25 \dots L > 100$		最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。		
							主桁、主構のそり(mm)	$-5 \sim +5 \dots L \ 20$ $-5 \sim +10 \dots 20 < L \ 40$ $-5 \sim +15 \dots 40 < L \ 80$ $-5 \sim +25 \dots 80 < L \ 200$		各主桁について10~12m間隔を測定。 各主構の各格点を測定。		
							主桁、主構の橋端における出入差(mm)	10		どちらか一方の主桁(主構)端を測定。		
							主桁、主構の鉛直度(mm)	$3+h/1,000$		各主桁の両端部を測定。 支点及び支間中央付近を測定。		
							現場継手部のすき間 <sub>1, 2</sub> (mm)	5 $\pm 5$		主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 は耐候性鋼材(裸使用)の場合		

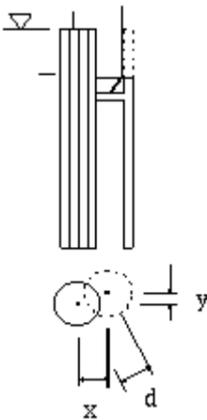
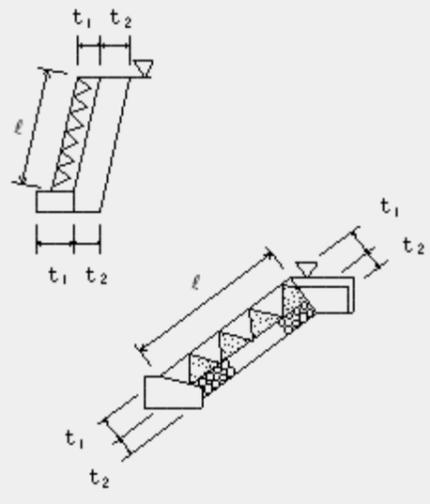
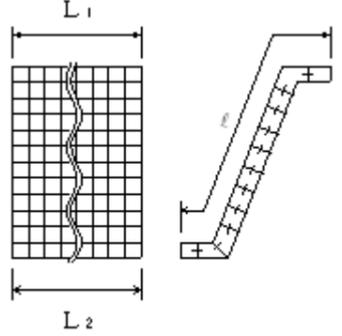
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要				
								プレートガ-タ-	トラス・ア-子等						
1	3	3	14	2	桁製作工 (仮組立による検査を省略する場合)	部材精度	フランジ幅 $w$ (m) 腹板高 $h$ (m) 腹板間隔 $b$ (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \dots 2.0 < w$	主桁、主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型プレート ガ-ター</p> <p>トラス弦材</p>				
									床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。					
									板の平面度 (mm)	プレートガ-タ-及びトラス等の部材の腹板	$h / 250$		主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。	
										箱桁等の及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b / 150$				
										フランジの直角度 (mm)	$w / 200$				
									部材長 $\ell$ (m)	プレートガ-タ-	$\pm 3 \dots L \leq 10$ $\pm 4 \dots L > 10$		原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。		
										トラス、ア-子など	$\pm 2 \dots L \leq 10$ $\pm 3 \dots L > 10$				
伸縮継手	$-5 \sim +10 \dots L \leq 10$ $-5 \sim +(5+w/2) \dots L > 10$														
		圧縮材の曲がり (mm)	$L / 1000$	主要部材全数を測定。											

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要	
								プレートガ-タ-	トラス・ア-子等			
1	3	3	14	2	桁製作工 (仮組立による検査を省略する場合)	組立精度	全長、支間長L(m)	$\pm(10+L/10)$	主桁、主構全数を測定。			
							主桁、主構の中心間距離B(m)	$\pm 4 \dots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \dots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。			
							主構の組立高さ h(m)	$\pm 5 \dots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \dots h > 5$	-	両端部及び中心部を測定。		
							主桁、主構の通り (mm)	$5+L/5 \dots L \leq 100$ $25 \dots L > 100$	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。			主げた
							架設完了キャンパ- (mm)	$L \leq 40 \dots \pm 25\text{mm}$ $L > 40 \dots \pm \{25+(L-40)\}$				
							主桁、主構の橋端における出入差 (mm)	10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。			主げた
							主桁、主構の鉛直度 (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。	支点及び支間中央付近を測定。		
							現場継手部のすき間 1, 2(mm)	5 $\pm 5$	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 は耐候性鋼材(裸使用)の場合			
							平面对角線長 (mm)	15mm				

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	14	3	桁製作工 (鋼製ダム製作工(仮組立時))	柱の水平度	10	全数を測定。	 <p>図a 格子形 鋼製砂防ダム</p>	
						堤長 L	$\pm 30$			
						堤長 $\square$	$10 \pm \square/10$			
						堤幅 W	$\pm 30$			
						堤幅 w	$10 \pm w/10$			
						高さ H	$10 \pm H/10$			
						ベースプレートの高さ	$\pm 10$			
						本体の傾き	$\pm H/0.5$			
								 <p>図b 鋼製スリット ダムA型</p>		
								 <p>図c 鋼製スリット ダムB型</p>		
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	15		工場塗装工	塗膜厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	工場塗装終了時に測定。ただし、工場の上塗りまで塗装する場合は、下塗り終了時と上塗り終了時に測定。なお、鋼橋塗装便覧にいうC塗装系の場合は、無機ジンクリッチペイントの塗布後にも測定。 1 ロットの大きさは、500 m <sup>2</sup> とする。 1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。		
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	16		コンクリート面塗装工	塗膜厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500 m <sup>2</sup> とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回を行い、その平均値をその点の測定値とする。		
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (碎石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						厚さ t	設計値以上			
						延長 L	各構造物の規格値による。			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	3	1	法留基礎工 (現場打)	基準高	±30	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						幅 w	-30			
						高さ h	-30			
						延長 L	-200			
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	3	2	法留基礎工 (プレキャスト)	基準高	±30	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						延長 L	-200			
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準高	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	D/4 以内かつ 100 以内			
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	基準高	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	D/4 以内かつ 100 以内			
						杭径	設計値以上			
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	基準高	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	150 以内			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	7		オープンケ-ソン基礎工	基準高	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケ-ソンの長さa	-50			
						ケ-ソンの幅 w	-50			
						ケ-ソンの高さh	-100			
						ケ-ソンの壁厚t	-20			
						偏心量 d	300 以内			
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	8		ニューマチックケ-ソン基礎工	基準高	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケ-ソンの長さa	-50			
						ケ-ソンの幅 w	-50			
						ケ-ソンの高さh	-100			
						ケ-ソンの壁厚t	-20			
						偏心量 d	300 以内			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要		
1	共通編	3	4	9	鋼管井筒基礎工	基準高	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 			
						根入長	設計値以上					
						偏心量 d	300 以内					
1	共通編	3	5	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積み) (コンクリートブロック張り)	基準高	±50	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。			
							法長□	□ < 3m				-50
								□ ≥ 3m				-100
							厚さ(ブロック積張) t <sub>1</sub>	-50				
							厚さ(裏込)t <sub>2</sub>	-50				
							延長 L	-200				
1	共通編	3	5	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基準高	±50	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。			
							法長 □	-100				
							延長 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200				

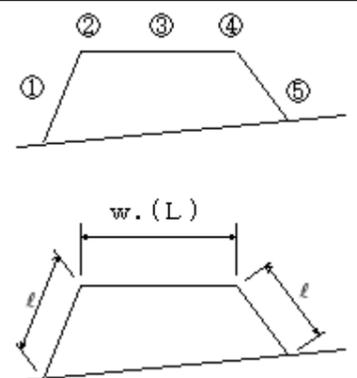
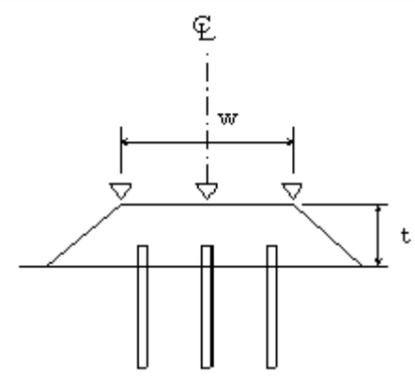
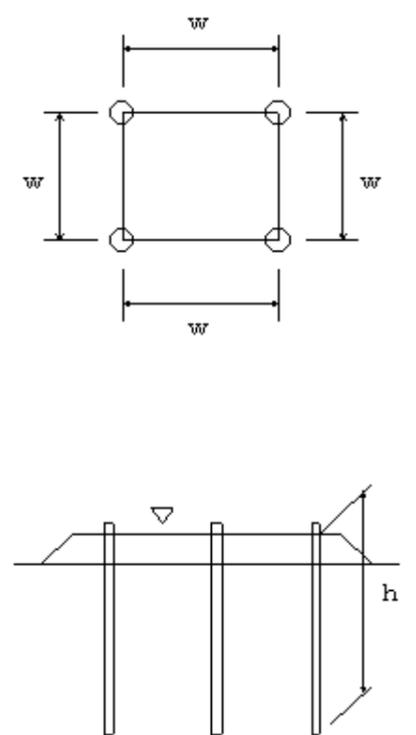
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
1	共通編	3	5	3	石・ブロック積(張)工 コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1箇所につき2箇所。			
						幅 w	-100				
						延長 L	-200				
1	共通編	3	5	4	石・ブロック積(張)工 緑化ブロック工	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。			
						法長□	□ < 3m				-50
							□ ≥ 3m				-100
							厚さ(ブロック) t <sub>1</sub>				-50
							厚さ(裏込) t <sub>2</sub>				-50
							延長 L				-200
1	共通編	3	5	5	石積(張)工	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。			
						法長□	□ < 3m				-50
							□ ≥ 3m				-100
							厚さ(石積・張) t <sub>1</sub>				-50
							厚さ(裏込) t <sub>2</sub>				-50
							延長 L				-200

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1	3	6	5	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高	±40	±50	-	基準高は延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚さ	-45		-15			
						幅	-50					
1	3	6	5	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50					
1	3	6	5	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコア-を採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50					
1	3	6	5	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚さ	-15	-20	-5	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコア-を採取して測定。	コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	-50		-			
1	3	6	5	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコア-を採取して測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-25		-			
1	3	6	5	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚さ	-7	-9	-2	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコア-を採取して測定。	コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-25		-			
						平坦性	3mプロフィールメータ ( )2.4mm以下 長読式(足付き) ( )1.75mm以下					
1	3	6	6	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高	±40	±50	-	基準高は延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。		
						厚さ	-45		-15			
						幅	-50		-			

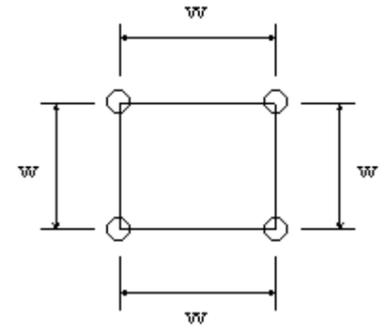
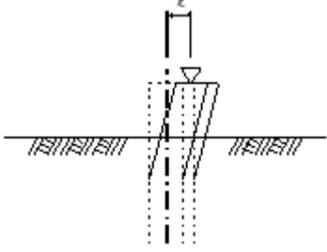
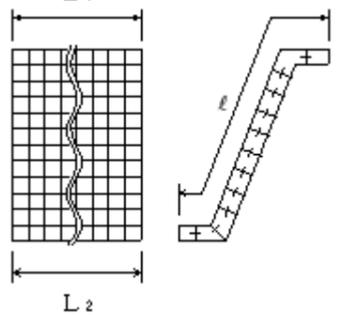
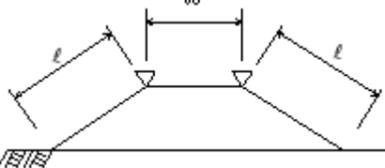
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1	3	6	6	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50		-			
1	3	6	6	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝青)安定処理工)	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1箇所の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。		
						幅	-50		-			
1	3	6	6	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1箇所の割でコアを採取して測定。		
						幅	-25		-			
1	3	6	6	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚さ	-10		-3.5	厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水系又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長20m毎に1箇所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		
						幅	-25		-			
					平坦性	コンクリートの硬化後、3mプロファイルメータにより機械舗設の場合( )2mm以下 人力舗設の場合( )3mm以下						
						基準高	±40	±50	-	基準高は、延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。		
厚さ	-45		-15									
幅	-50		-									
1	3	6	6	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50		-			

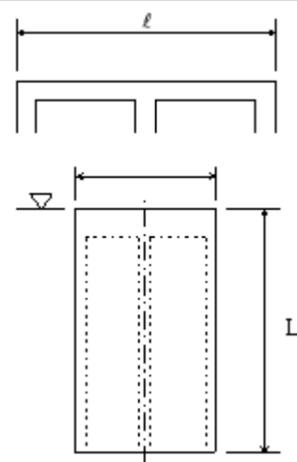
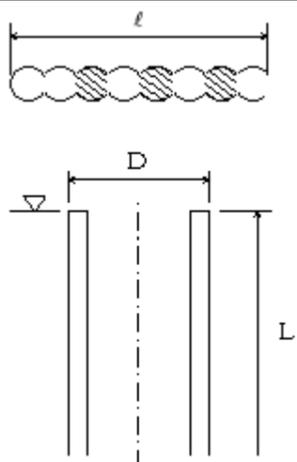
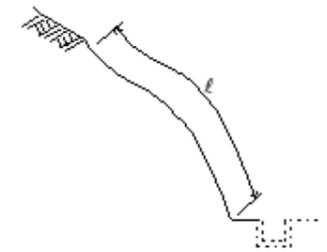
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値			測定基準	測定箇所	摘要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )			
							中規模以上	小規模以下	中規模以上			
1	3	6	6	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m <sup>2</sup> に1箇所の割でコア-を採取もしくは、掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-50					
1	3	6	6	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m <sup>2</sup> に1箇所の割でコア-を採取して測定。		
						幅	-25					
1	3	6	6	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚さ	-15		-4.5	厚さは、各車線を中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長20m毎に1箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		
						幅	-35					
						平坦性	転圧コンクリートの硬化後、3mプロフィールメータにより( )3mm以下。					
1	3	6	7	1	薄層カラ-舗装工 (下層路盤工)	基準高	±40	±50		基準高は、延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X <sub>10</sub> )について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア-採取について 橋面舗装等でコア-採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						厚さ	-45		-15			
						幅	-50		-			
1	3	6	7	2	薄層カラ-舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇所を掘り起こして測定。		
						幅	-50		-			
1	3	6	7	3	薄層カラ-舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚さ	-25	-30	-8	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m <sup>2</sup> に1箇所の割でコア-を採取もしくは掘り起こして測定。		
						幅	-50		-			
1	3	6	7	4	薄層カラ-舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚さ	-15	-20	-5	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m <sup>2</sup> に1箇所の割でコア-を採取して測定。		
						幅	-50		-			
1	3	6	7	5	薄層カラ-舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m <sup>2</sup> に1箇所の割でコア-を採取して測定。		
						幅	-25		-			

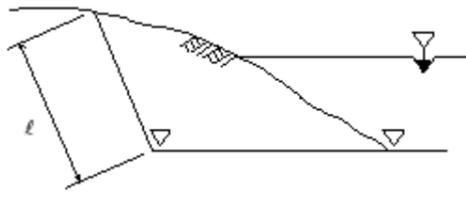
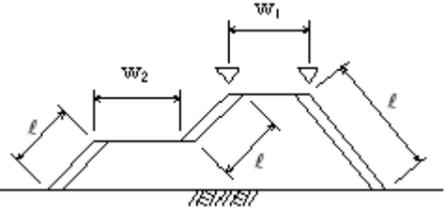
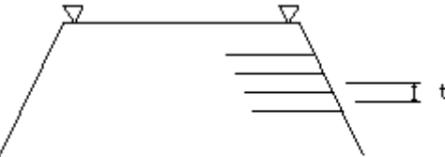
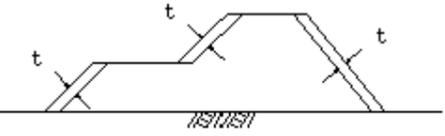
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	2		路床安定処理工	基準高	±50	延長20m毎に1箇所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						施工厚さ t	-50			
						幅 w	-100			
						延長 L	-200			
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	3		置換工	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						置換厚さ t	-50			
						幅 w	-100			
						延長 L	-200			
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	4	1	表層安定処理工 (サンドマット)	施工厚さ t	-50	施工延長20mにつき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。		
						幅 w	-100			
						延長 L	-200			

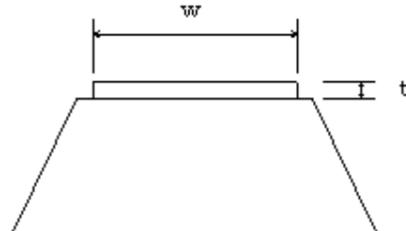
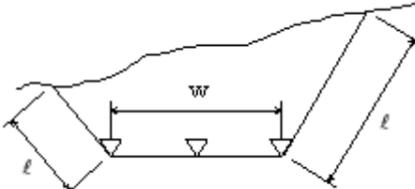
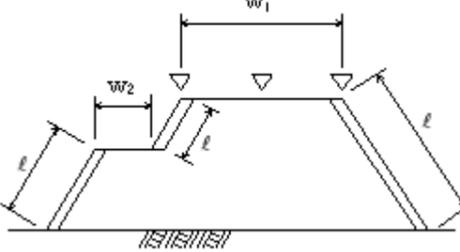
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	4	2	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高	特記仕様書に明示	施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。  w.(L)は施工延長 20m につき 1 箇所、20m 以下のものは 1 施工箇所につき 3 箇所。 (L)はセンターライン及び表裏法肩で行う。	
						法長 $\square$	-500		
						天端幅 w	-300		
						天端延長 L	-500		
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	基準高	$\pm 50$	施工延長 20m につき 1 箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。	
						厚さ t	-50		
						幅 w	-100		
						延長 L	-200		
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	7	8	パチカルドレン工 (サンドドレン工) (ペ-パドレン工) (袋詰式サンドドレン工) 締固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	位置・間隔 w	$\pm 100$	100 本に 1 箇所。 100 本以下は 2 箇所測定。1 箇所に 4 本測定。 ただし、ペ-パドレンの杭径は対象外とする。  全本数 全本数 計器管理にかえることができる。	
						杭径 D	設計値以上		
						打込長さ h	設計値以上		
						サンドドレン、袋詰式サンドドレン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	-		

※余長は適用除外

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (セメントミルク攪拌工) (生石灰パイル工)	基準高	-50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。		
						位置・間隔w	D/4以内			
						杭径D	設計値以上	全本数		
						深度□	設計値以上			
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基準高	±100	基準高は施工延長20mにつき1箇所。延長20m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
						根入長	設計値以上			
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	2	土留・仮締切工 (アンカ-工)	削孔深さ	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)		
						配置誤差	100			
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法長□	-100	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
						延長 L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>	-200			
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高	-50	施工延長40mにつき1箇所。 延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		
						天端幅 w	-100			
						法長 □	-100			
1 共通編	3 一般施工	10 仮設工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高	-50	施工延長40mにつき1箇所。 延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要			
1	3	10	8		地中連続壁工(壁式)	基準高	±50	基準高は施工延長20mにつき1箇所。延長20m以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20mにつき1箇所。延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。					
						連壁の長さ a	-50						
						変位	300						
						壁体長 L	-200						
1	3	10	9		地中連続壁工(柱列式)	基準高	±50	基準高は施工延長20mにつき1箇所。延長20m以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20mにつき1箇所。延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		D: 杭径			
						連壁の長さ a	-50						
						変位	D/4 以内						
						壁体長 L	-200						
1	3	10	25		法面吹付工	法長a	a < 3m	-50	施工延長20mにつき1箇所、20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。				
							a ≥ 3m	-100					
						厚さt	t < 5cm	-10	200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。				
							t ≥ 5cm	-20					
						厚さt		但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上					
						延長L		-200	1施工箇所毎				

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	2		掘削工(切土工)	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は掘削部の両端で測定。			
						法長L	L<5m				-200
							L 5m				法長-4%
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	3		盛土工	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は各法肩で測定。			
						法長L	L<5m				-100
							L 5m				法長-2%
						幅 W <sub>1</sub> , W <sub>2</sub>	-100				
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	4		盛土補強工	基準高	-50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
						厚さt	+0				
							-50				
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	5		整形仕上げ工(盛土工)	厚さt	-30	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所、法の中央で測定。			

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
						厚さt	幅 w				
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	6		天端敷砂利工	厚さt	t < 15cm	-25	幅は、施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 厚さは、施工延長 200m につき 1 箇所、200m 以下は 2 箇所、中央で測定。		
							t ≥ 15cm	-50			
						幅	w	-100			
1 共通編	4 土工	4 道路土工	2		掘削工(切土工)	基準高		± 50	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
						法長 L	L < 5m	-200			
							L ≥ 5m	法長-4%			
						幅	w	-100			
1 共通編	4 土工	4 道路土工	3 4		路体盛土工 路床盛土工	基準高		± 50	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
						法長 L	L < 5m	-100			
							L ≥ 5m	法長-2%			
						幅	w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-100			
1 共通編	4 土工	4 道路土工	5		法面整形工(盛土工)	厚さ t		-30	施工延長 20m につき 1 箇所、延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 法の中央で測定。	